

# 令和5年度学校自己評価表

鳥取県立米子東高等学校全日課程

学校ビジョン	未来を拓く人財の育成		今年度の重点目標	1 主体的な学びの推進 2 豊かな人間性の育成 3 生徒・保護者・地域に信頼される学校 4 働き方改革の推進
中長期目標	<p>1 人間理解のできる生徒の育成 人間の強さや弱さ、尊厳を深く理解し、自分と異質のものの存在を認めながら、共に関わり共に生きる共生の精神を持つ生徒を育成する。</p> <p>2 課題意識のある生徒の育成 知的好奇心、科学的探究心と課題解決能力を育て、自身や社会に常に意識を持って自主的・積極的に学習し、自らの成長と社会への貢献を志す生徒を育成する。</p> <p>3 自己表現のできる生徒の育成 他人の意見に対しては率直に受け止め、自分の意見を論理的に明確に表明できるコミュニケーション能力を持った生徒を育成する。</p>			

評価項目	具体項目	年度当初			最終評価	
		現状	具体目標	目標達成のための方策	経過・達成状況・改善方策	評価
1 主体的な学びの推進	ICTを活用したアクティブ・ラーニング等による授業改善と適切な評価	ICTを活用したアクティブ・ラーニング型授業を各教科で実践するとともに、開講科目ごとのルーブリックを作成してパフォーマンス評価を実施している。授業アンケート「この授業は自分にとって満足のものだった」の間の、肯定的な回答が93.5%。	・教員のICTを活用した授業スキルの向上 ・授業アンケート「この授業は自分にとって満足のものだった」の問いに、肯定的な回答90%以上	・授業アンケートを全教員が実施し、授業改善を行う。 ・各教科ともルーブリックに基づき、パフォーマンス評価を実行する。 ・ICT活用に関する教職員研修会を実施する。 ・Chromebookを活用し、課題等の配信を行う。	・授業アンケートは、Chromebookを活用して全教科・科目で実施し、授業改善に生かした。「この授業は自分にとって満足のものだった」の間の肯定的な回答は92.4%。 ・開講科目ごとにルーブリックに基づいたパフォーマンス評価を行い、考査や平常点なども考慮した総合的な評価を実施した。 ・Chromebookを活用した授業実践について、教科の枠を超えた授業参観により、授業展開の工夫を行った。 ・課題・資料の配信、各種調査・アンケート、小テスト、授業内での活動のツールなど様々な形でChromebookを活用している。	A
	SSH事業に取り組むことで、科学的探究心・情報発信力、実践力を身につけ、よりよい社会の実現を目指すチャレンジャーを育成	各種科学コンテスト・土曜授業等実施事業への参加など内外コンペに積極的に打って出ている。 ・総参加者 106件・1131人 ・予選を通過して上位大会へ出場した者 16件・36人	各種科学コンテスト・土曜授業等実施事業への参加など内外コンクールやコンペへの参加者数 ・総参加者 120件・1200人以上 ・予選を通過して上位大会へ出場する者 20件・50人以上	・「打って出る」の研究と進路目標を結びつける取組を継続する。 ・外部有識者による中間発表指導やフィールドワーク講習により、探究の質を向上させる。 ・学校設定科目「課題探究基礎」「課題探究応用」「課題探究発展」の内容を改善し、主体的探究活動のさらなる推進を図る。	・各種科学コンテスト・土曜活用事業など内外コンクールやコンペへの参加の意義を語り、積極的に参加するよう促した。総参加者数は102件・1100人。上位大会へ出場者は18件・43人であった。年度末までに多数の参加が見込まれる。 ・「科学の甲子園」3年連続全国大会出場、化学グランプリ大賞受賞、日本生物学オリンピック銅賞受賞など全国トップレベルの活躍が見られた。 ・学校設定科目「課題探究基礎」では、週1回の担当者会を実施し、系統的なカリキュラムの検証を行うことにより内容の改善につなげた。 ・学校設定科目「課題探究応用」では、観点別評価に合わせた新しい評価法を作成し、グループだけでなく個人の取組内容の伸長を評価する仕組みを検討した。また、中間発表では大学教員に専門的な見地からのアドバイスを受け、探究力の向上が見られた。 ・学校設定科目「課題探究発展」では、イノベーション成果発表会に多数の研究者や他校教員の前で、73人の継続課題探究選択者が口頭発表を行った。 ・学校満足度アンケートで、「独自のものを創り出そうとする姿勢（独創性）は増したと思いますか」の間に肯定的な回答が68.8%だった。	A
	高い目標に向かって努力する生徒を育成する進路指導の充実	・国公立大学合格者233名（うち、現役合格者188名）、難関大学合格者54名となった。 ・東京大学訪問に26名が参加	・国公立大学合格者200名以上（現役合格者170名以上） ・難関大学合格者60名以上	・総合型選抜入試、学校推薦型選抜入試を適切に活用する。 ・個別学力試験対策の強化（授業・講習） ・難関大学訪問の実施	・国公立大学合格者235名（現役合格189名）、難関大学合格者数61名。 ・総合型選抜入試29名が出願し16名が合格、学校推薦型選抜入試78名が出願し44名が合格した。 ・3年次放課講習及び夏季講習 27講座開設し、延べ846名が受講した（昨年度：32講座、延べ1,471名） ・夏期講習や冬期講習については、多くの生徒が受講するよう、声掛け等の方策を考える必要がある。 夏期講習 1年次188名（昨年度229名） 2年次66名（昨年度79名） 冬期講習 1年次 79名（昨年度115名） 2年次39名（昨年度74名） ・東京大学訪問に13名が参加した（昨年度26名）。	B
2 豊かな人間性の育成	主体性・自律性の育成	・環境整備委員会を中心に、掃除の徹底を行っている。 ・総遅刻者数は延べ291人で対前年度比8%増であった。 ・問題行動件数は1件であった。	・規範意識の高揚 ・主権者意識の高揚 ・TEASの推進 ・生徒会活動の推進 ・SDGsの推進 ・遅刻者数対前年比減 ・問題行動件数0件	・掃除と挨拶の徹底 ・主権者教育や環境教育など、各種領域教育を実施し、社会参画への態度を育成する。 ・遅刻確認票による遅刻指導の徹底 ・自転車用ヘルメットの着用を徹底する。	・教員の指示がなくても自主的に掃除をする生徒が多い。生徒が自ら進んで挨拶する雰囲気がある。 ・学校満足度アンケート「掃除や挨拶にきちんと取り組んでいるか」の間の肯定的な回答は94.2%。 ・生徒会を中心に校則の見直しやSDGsワークショップ等を行い、生徒が主体的に活動した。 ・学校祭をほぼコロナ禍前の形で実施し、生徒が主体的に取り組むことができた。 ・総遅刻者数が、前年度比14%減（R4:291人⇒R5:251人）であった。今後も遅刻確認票などによる遅刻指導を徹底する。 ・自転車用ヘルメットは、学校周辺ではほとんどの生徒が着用しているが、登下校中にはずしている生徒もみられる。安全意識の向上を図りたい。 ・問題行動件数3件。今後も普段の生徒指導を徹底し、未然防止にむけ迅速、適切に対応する。	B
	部活動の推進	全国高校総体飛込競技で優勝するなど、多くの部が活躍した。 中国大会出場の部活動・個人は50 全国大会出場の部活動・個人は24	・学業と部活動の両立 ・運動部活動 県大会ベスト4以上 ・文化部活動 中国ブロック大会以上	・中国大会・全国大会へ出場する部活動を増やすために指導方法の改善と工夫を推奨する。 ・「部活躍報告」を行うことにより、賞賛する機会を設ける。	・全国高校総体で女子高飛込優勝、女子3m飛板飛込準優勝、飛込競技女子学校対抗で優勝した。 ・全国高校囲碁選手権大会で男子団体が3位に入賞した。 ・中国大会・近畿大会出場の部活動・個人は昨年度の50から59へ、全国大会出場の部活動・個人は24から30へと増加した。 ・「部活躍報告」で県大会等で上位に入賞した部活動を表彰し、賞賛する機会を設けるとともに、HPに掲載した。 また、始業式・終業式において部活動等で活躍した生徒の報告会を実施し、オンラインで全校生徒に紹介した。	A
	体験的な学びの推進	・グローバルリーダーズキャンパスは13名が受講 ・小川・早原奨学基金による海外研修に各5名、国費高校生留学促進事業によるオーストラリア研修に16名が参加 ・SSH沖縄研修に25名参加 ・人権教育を各学年で工夫し実施	・人権教育の推進 ・異世代・異文化交流の推進 ・読書活動の充実 ・ボランティア活動への積極的な参加 ・何事にも妥協せず、理想を追求する生徒の育成	・台湾桃園市立陽明高級中学との交流 ・海外研究機関との交流 ・海外研修へ積極的に派遣 ・SSHオーストラリア研修、沖縄研修の実施 ・体験型ワールドカフェ形式の人権教育公開LHRの実施	・台湾桃園市立陽明高級中学との国際交流事業を実施した。（受入れ生徒32名・訪問生徒15名） ・グローバルリーダーズキャンパスの受講希望者14名（昨年15名）のうち、6名（昨年10名）が県の審査を通過し、3名（昨年3名）が聴講生として参加した。 ・小川・早原奨学基金によるロサンゼルス研修を3月に実施し、10名が参加した。 ・米子東高等学校オーストラリア研修を3月に実施し、22名が参加した。 ・人権教育公開LHRでは、1年次生は、グループで選択した人権課題について体験型ワールドカフェ方式で発表・質疑を行い、2年次生は、部落差別の現状を忌避意識を中心に学習し、人権意識の深化を図った。 ・3年次生は、鳥取県人権施策基本方針に挙げられている人権課題についてグループで考察を深め、差別解消の担い手としての自覚を深めた。	A
3 生徒・保護者・地域に信頼される学校	PTA活動の充実	PTAの各委員会（総務、人権教育推進、生徒育成、進路）が役員主体で活発に活動している。	保護者と教職員の連携強化によるPTA活動の更なる活性化	PTAのニーズに対応した事業内容の見直しを進める。	・9月には、障がい者問題をテーマにPTA人権教育推進委員研修会を、1月には、マジョリティ特権をテーマにPTA人権教育研修会を行い、人権教育の推進に努めた。また、機関紙『ロゴスのこころ』を発行した。 ・11月には、PTA大学訪問を実施し、34名の保護者が神戸大学、関西学院大学を見学し、説明を聞いた。 また、コーチングをテーマとしたPTA主催講演会を開催し、47名の保護者が、学校・家庭における「育ちの支援」について学習を深めた。 ・各委員会は委員長が主体となり、学校の担当者や連携しながら積極的に活動を行った。 ・米東だより（110号・111号）や号外の教職員紹介号を予定通り発行した。 ・地域連携協働活動に取り組み、休日等に図書館、自習室を開館した。	A
	地域への発信	・積極的な情報発信を行い、学校理解を進めている。 ・学校運営協議会を開催し、地域住民の理解と協力を得た学校運営を行っている。	・積極的な学校情報の発信による地域・保護者への学校理解の促進 ・地域との連携強化や学校運営協議会との適切な連携・協働による地域とともにある学校づくり	・ホームページにより積極的に学校情報を発信する。 ・学校運営協議会を定期的開催し、熱議をして地域等との連携を深めた学校運営を行う。	・学校行事の際は積極的に取材に赴き、ホームページに掲載した。ホームページ更新回数は102回（昨年93回）。 ・部活動の活躍など生徒の活動の様子を写真やコメント付きでホームページ上で発信した。 ・学校運営協議会を3回実施（2回目は書面により実施、昨年度までは2回実施）し、地域と連携した学校運営に努めた。	A
4 働き方改革の推進	時間外業務時間の削減	教職員の1人あたりの時間外業務時間は令和4年度は13.2時間/月であった。	「県立学校教育職員の勤務時間の上限に関する方針」に定める上限時間を遵守する。	「鳥取県立米子東高等学校部活動に係る方針」を遵守するとともに、声掛け等により個々の業務の効率化を促す。	・資料をChromebookに配信し職員会議を実施した。 ・採点ソフト百問練乱の利用を促進し、多くの教員が利用した。 ・個々の教職員が、定時退勤日を設定するなど意識を高める工夫を行った。 ・時間外業務時間が月45時間、年間360時間を超える教職員がおり、声掛けを継続した。	B
	会議の精選	会議・委員会の廃止・統合など業務の効率化を進めている。	協議スキームを徹底し、会議・委員会の開催回数と時間を削減する。	・朝礼後に打合せを行い、業務の効率化を進める。 ・ノー会議月間を設定する。	・Chromebookを用いてペーパーレスで担任会を行うなど、会議の効率化に努めた。 ・会議の時間を取らず、朝礼などでの連絡・報告・確認を行うことで業務の効率化を図った。 ・11月をノー会議月間とした。	B

評価基準 A：十分達成した B：概ね達成している C：取り組みはやや遅れている D：方策の見直しが必要